

# 川 崎 市 の 学 校

—平成22年度学校基本調査結果—

## 調査の概要

学校基本調査（文部科学省所管、基幹統計調査）は、学校に関する基本的事項を調査し学校教育行政上の基礎資料を得ることを目的として、昭和23年度から毎年実施されています。

### 1 調査の目的

この調査は、学校教育行政に必要な学校に関する基本的事項を明らかにすることを目的とします。

### 2 調査の対象

調査の対象は、学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に定める小学校、中学校、高等学校、大学、高等専門学校、特別支援学校、幼稚園及び同法第124条に定める専修学校並びに同法第134条に定める各種学校です。調査は、大学、高等専門学校及び国立学校は文部科学省が直接調査し、公立及び私立の高等学校並びに都道府県立学校は都道府県が調査します。それ以外は、市町村が実施します。

### 3 調査の期日

平成22年5月1日現在

### 4 調査の種類及び主な調査事項

調査の種類	申告者	主な調査事項
学校調査	学校の長	学校数、学級数、園児・児童・生徒数、入学者数、卒業者数、教職員数
卒業後の状況調査		進路別卒業者数、産業・職業別就職者数
不就学学齢児童生徒調査	市教育委員会	学齢児童生徒の就学免除及び猶予の状況、居所不明及び死亡した学齢児童生徒の数
学校施設調査	学校設置者	用途別土地面積、構造別・用途別建築面積、新築・改築等による建物増加

## 利用上の注意

この報告書は、平成22年5月1日に実施された学校基本調査における川崎市分の結果と神奈川県が公表した調査結果から、川崎市における公立及び私立の初等中等教育機関、専修学校、各種学校について、その概要をまとめたものです。

### 本文及び統計表中の記号及び数値について

「－」：該当数値なし又は皆無

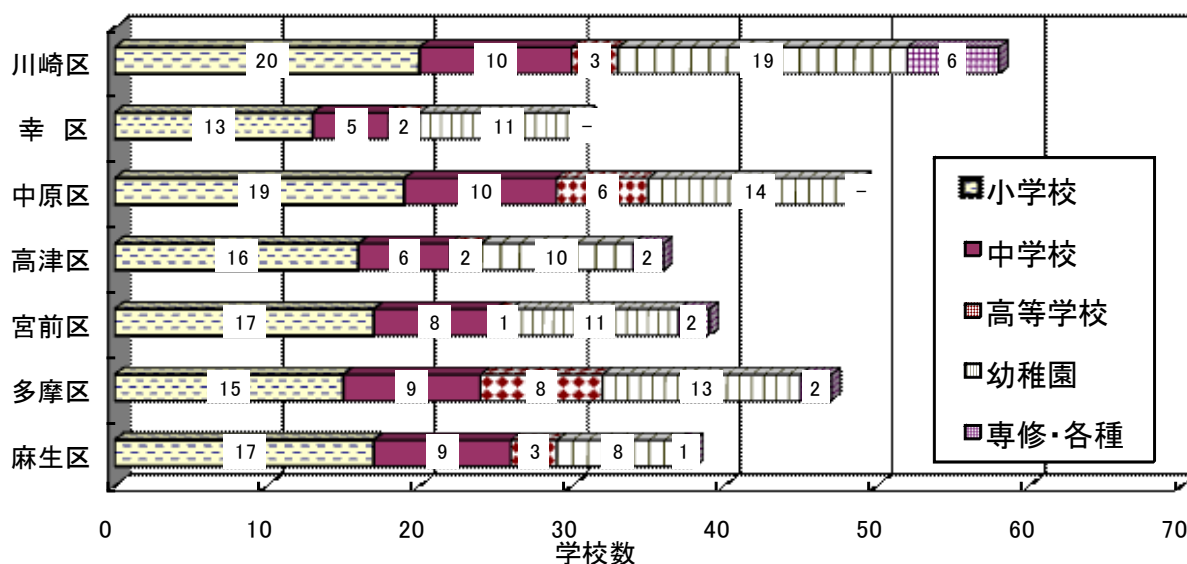
「0」、「0.0」：単位未満の値

「△」：マイナスの値

「…」：不詳の値

数値は一部を除き小数点以下第2位を四捨五入していますので、総数と内訳の計が一致しない場合もあります。

図1 学校の区別分布状況(平成22年度)



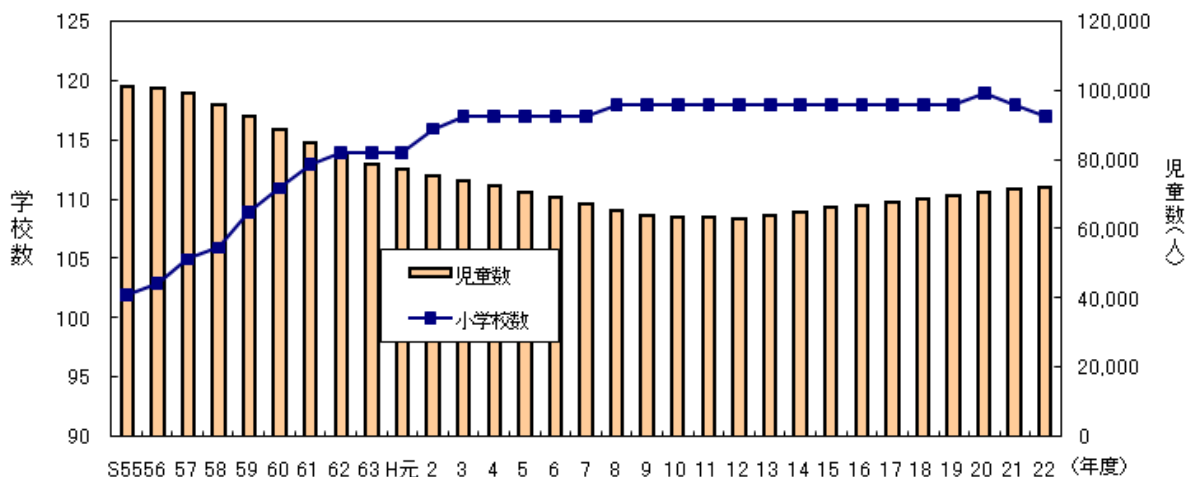
## I 市内の学校の状況(公立及び私立)

小学校	117校	学級数	2,602学級	児童数	71,982人
中学校	57校	学級数	1,013学級	生徒数	30,937人
高等学校	25校	学科数	34学科	生徒数	22,322人
特別支援学校	6校	学級数	285学級	幼児・児童・生徒数	1,056人
幼稚園	86園	学級数	819学級	幼児数	23,382人
専修学校	10校	学科数	20学科	生徒数	1,687人
各種学校	3校	課程数	6課程	生徒数	149人

※特別支援学校とは、平成19年4月1日に施行された学校教育法によって、盲・ろう・養護学校を一本化したものです。

## 1 小学校

図2 小学校数と児童数の推移



### (1) 学校数

学校数は公立が 113 校、私立が 4 校の合計 117 校で、前年度に比べて 1 校 (0.8%) 減少となりました。

### (2) 学級数

学級数は 2,602 学級で、前年度に比べて 9 学級 (0.3%) 増加し、12 年連続の増加となりました。公、私立別にみると、公立は 9 学級 (0.4%) 増加して 2,554 学級、私立は前年度と同数で 48 学級となりました。

そのうち、特別支援学級 (学校教育法第 81 条第 2 項各号に該当する児童・生徒一知的障害者、肢体不自由者、身体虚弱者、弱視者、難聴者他一で編成している学級) は前年度に比べて 2 学級 (0.5%) 減少して 403 学級となり、8 年ぶりに減少となりました。

### (3) 児童数

児童数は 71,982 人で、前年度に比べて 406 人 (0.6%) 増加し、昭和 55 年度 (児童数 101,517 人) をピークに平成 12 年度まで減少が続いていましたが、ここ 10 年間は増加しています。公、私立別にみると、公立は 406 人 (0.6%) 増加して 70,329 人、私立は前年度と同数の 1,653 人となりました。

そのうち特別支援学級の児童数は 1,216 人で、前年度に比べて 55 人 (4.7%) 増加し、平成 6 年度から連続して増加しています。

1 学校当たりの児童数は 615.2 人で、前年度に比べて 8.6 人増加しました。公、私立別にみると、公立は 622.4 人で 9.0 人増加し、私立は 413.3 人で前年度と同数でした。

公立について、児童数を区別にみると、川崎区、幸区、麻生区は増加率が高くなっています。1 学校当たりの児童数が最も多いのは高津区の 751.2 人で、逆に最も少ないのは川崎区の 489.6 人でした。

1 学級当たりの児童数は 27.7 人で、前年度と比べ 0.1 人増加しました。公、私立別にみると、いずれも前年と同数で公立が 27.5 人、私立が 34.4 人でした。

公立において、特別支援学級を除いた場合の 1 学級当たりの児童数は 32.1 人で、前

年度と同数でした。なお、特別支援学級の1学級当たりの児童数は3.0人で、前年度と比べ0.1人増加しました。

児童数別学級数をみると、前年同様、児童数が31～35人の学級が最も多く、構成比（学級数総数に占める割合）は0.6ポイント増加し37.9%でした。36～40人の学級の構成比は0.3ポイント減少し18.3%、26～30人の学級の構成比は0.7ポイント増加し23.2%でした。

外国人児童数は、前年度に比べて114人（21.8%）減少して408人となりました。区別にみると、最も多いのは川崎区の173人で、逆に最も少ないのは麻生区の20人となっています。

#### （4）教員数（本務者）

教員数は3,693人で、前年度に比べて41人（1.1%）増加しました。

公、私立別にみると、公立が39人（1.1%）増加して3,595人、私立が2人（2.1%）増加して98人となりました。

男女別にみると、男性が3人（0.2%）増加して1,247人（構成比33.8%）、女性が38人（1.6%）増加して2,446人（同66.2%）となりました。

1教員当たりの児童数は、昭和55年度（29.9人）に30人を下回って以来、減少傾向にあり、前年度と比べ0.1人減少して19.5人となりました。

表1 小学校の概況

年次	学校数	学級数	児童数			教員数(本務)		1学校当たり		1学級当たり		1教員 当たり 児童数
			総数	男	女	総数	うち女	児童数	教員数	児童数	教員数	
実数												
18年度	118	2,431	68,891	35,428	33,463	3,471	2,292	583.8	29.4	28.3	1.4	19.8
19年度	118	2,480	69,710	35,767	33,943	3,527	2,313	590.8	29.9	28.1	1.4	19.8
20年度	119	2,559	70,882	36,203	34,679	3,114	2,081	595.6	26.2	27.7	1.2	22.8
21年度	118	2,593	71,576	36,419	35,157	3,652	2,408	606.6	30.9	27.6	1.4	19.6
公立	114	2,545	69,923	35,833	34,090	3,556	2,347	613.4	31.2	27.5	1.4	19.7
川崎区	21	383	9,646	4,927	4,719	541	347	459.3	25.8	25.2	1.4	17.8
幸区	13	254	6,825	3,460	3,365	356	237	525.0	27.4	26.9	1.4	19.2
中原区	18	408	11,162	5,743	5,419	572	374	620.1	31.8	27.4	1.4	19.5
高津区	15	389	11,204	5,721	5,483	537	368	746.9	35.8	28.8	1.4	20.9
宮前区	17	436	12,556	6,466	6,090	597	403	738.6	35.1	28.8	1.4	21.0
多摩区	14	336	9,192	4,778	4,414	480	317	656.6	34.3	27.4	1.4	19.2
麻生区	16	339	9,338	4,738	4,600	473	301	583.6	29.6	27.5	1.4	19.7
私立	4	48	1,653	586	1,067	96	61	413.3	24.0	34.4	2.0	17.2
22年度	117	2,602	71,982	36,619	35,363	3,693	2,446	615.2	31.6	27.7	1.4	19.5
公立	113	2,554	70,329	36,040	34,289	3,595	2,384	622.4	31.8	27.5	1.4	19.6
川崎区	20	387	9,792	5,006	4,786	547	354	489.6	27.4	25.3	1.4	17.9
幸区	13	259	6,916	3,530	3,386	366	235	532.0	28.2	26.7	1.4	18.9
中原区	18	414	11,260	5,805	5,455	582	383	625.6	32.3	27.2	1.4	19.3
高津区	15	389	11,268	5,760	5,508	545	371	751.2	36.3	29.0	1.4	20.7
宮前区	17	428	12,474	6,412	6,062	589	398	733.8	34.6	29.1	1.4	21.2
多摩区	14	334	9,132	4,731	4,401	482	331	652.3	34.4	27.3	1.4	18.9
麻生区	16	343	9,487	4,796	4,691	484	312	592.9	30.3	27.7	1.4	19.6
私立	4	48	1,653	579	1,074	98	62	413.3	24.5	34.4	2.0	16.9
対前年度増減率(%)												
総数	△0.8	0.3	0.6	0.5	0.6	1.1	1.6	1.4	2.0	0.4	0.0	△0.5
公立	△0.9	0.4	0.6	0.6	0.6	1.1	1.6	1.5	1.9	0.0	0.0	△0.5
川崎区	△4.8	1.0	1.5	1.6	1.4	1.1	2.0	6.6	6.2	0.4	0.0	0.6
幸区	-	2.0	1.3	2.0	0.6	2.8	△0.8	1.3	2.9	△0.7	0.0	△1.6
中原区	-	1.5	0.9	1.1	0.7	1.7	2.4	0.9	1.6	△0.7	0.0	△1.0
高津区	-	0.0	0.6	0.7	0.5	1.5	0.8	0.6	1.4	0.7	0.0	△1.0
宮前区	-	△1.8	△0.7	△0.8	△0.5	△1.3	△1.2	△0.6	△1.4	1.0	0.0	1.0
多摩区	-	△0.6	△0.7	△1.0	△0.3	0.4	4.4	△0.7	0.3	△0.4	0.0	△1.6
麻生区	0.0	1.2	1.6	1.2	2.0	2.3	3.7	1.6	2.4	0.7	0.0	△0.5
私立	-	-	0.0	△1.2	0.7	2.1	1.6	0.0	2.1	0.0	0.0	△1.7

表2 小学校の公・私立別、児童数別学級数

1学級 児童数	学級数						構成比(%)					
	総数		公立		私立		総数		公立		私立	
	21年度	22年度	21年度	22年度	21年度	22年度	21年度	22年度	21年度	22年度	21年度	22年度
総数	2,593	2,602	2,545	2,554	48	48	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1~12人	407	404	405	403	2	1	15.7	15.5	15.9	15.8	4.2	2.1
13~20	8	10	4	5	4	5	0.3	0.4	0.2	0.2	8.3	10.4
21~25	135	112	135	112	-	-	5.2	4.3	5.3	4.4	-	-
26~30	584	603	584	603	-	-	22.5	23.2	22.9	23.6	-	-
31~35	968	987	960	976	8	11	37.3	37.9	37.7	38.2	16.7	22.9
36~40	482	477	456	454	26	23	18.6	18.3	17.9	17.8	54.2	47.9
41~45	9	9	1	1	8	8	0.3	0.3	0.0	0.0	16.7	16.7
46人以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(5) 長期欠席者数

長期欠席者数（平成21年4月1日から平成22年3月31日までの間に通算30日以上  
の欠席者）は、20年度間より70人（10.2%）減少して618人となり、全児童に占める  
割合は0.9%となっています。

理由別内訳をみると、「病気」が277人（構成比44.8%）で最も多く、次に「不登校」  
175人（同28.3%）、「その他」166人（同26.9%）の順になっています。

20年度間の結果と比べると、「病気」を理由とする長期欠席者は53人（16.1%）減  
少し、「不登校」を理由とする長期欠席者は19人（9.8%）減少しました。

理由別内訳のうち「不登校」についてみると、全児童に占める不登校児童の割合は  
0.2%で、20年度間より0.1ポイント減少し、不登校の児童は411.3人に1人となって  
います。

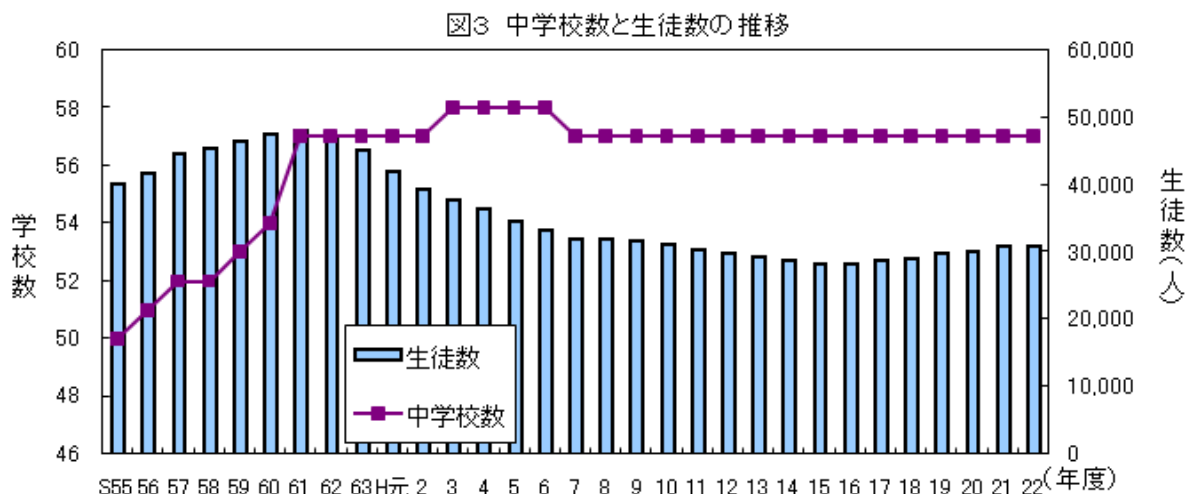
表3 小学校の理由別長期欠席者数（年度間に通算30日以上欠席した児童数）（単位：人）

区 分	19年度間	20年度間			21年度間		
	実 数	実 数	増減数	増減率(%)	実 数	増減数	増減率(%)
総 数	796	688	△ 108	△ 13.6	<b>618</b>	<b>△ 70</b>	<b>△ 10.2</b>
病 気	429	330	△ 99	△ 23.1	277	△ 53	△ 16.1
経 済 的 理 由	1	0	△ 1	-	-	0	-
不 登 校	200	194	△ 6	△ 3.0	175	△ 19	△ 9.8
そ の 他	166	164	△ 2	△ 1.2	166	2	1.2

表4 区別理由別長期欠席児童数

	計	病気	経済的理由	不登校	その他
川崎市	618	277	-	175	166
川崎区	154	79	-	31	44
幸 区	71	35	-	20	16
中原区	72	33	-	17	22
高津区	95	29	-	33	33
宮前区	92	32	-	41	19
多摩区	83	51	-	20	12
麻生区	51	18	-	13	20

## 2 中学校



### (1) 学校数

学校数は公立が51校、私立が6校の合計57校で、前年度と同数でした。

### (2) 学級数

学級数は1,013学級で、前年度と比べて17学級(1.7%)増加しました。公、私立別にみると、公立は16学級(1.8%)増加して915学級、私立は1学級(1.0%)増加して98学級でした。

そのうち特別支援学級は前年度と比べて8学級(5.4%)増加して、156学級となっています。

### (3) 生徒数

生徒数は30,937人で、前年度に比べて122人(0.4%)増加し、昭和61年度(生徒数47,997人)をピークに平成16年度まで減少が続いていましたが、ここ6年間は増加しています。中学校の生徒数は、小学校の児童数が10年連続して増加していることから、増加傾向がしばらく続くとみられます。公、私立別にみると、公立は127人(0.5%)増加して27,093人、私立は5人(0.1%)減少して3,844人となりました。

そのうち特別支援学級の生徒数は484人で、18人(3.9%)増加し、7年連続の増加となりました。

1学校当たりの生徒数は542.8人で、前年度に比べて2.2人増加しました。

公立について、生徒数を区別にみると、幸区、高津区、麻生区は増加率が高くなっています。1学校当たりの生徒数が最も多いのは宮前区の701.1人で、逆に最も少ないのは川崎区の409.3人でした。

1学級当たりの生徒数は30.5人で、前年度に比べて0.4人減少しました。

公立において、特別支援学級を除いた場合の1学級当たりの生徒数は0.2人減少し、35.1人となっています。なお、特別支援学級の1学級当たりの生徒数は3.1人で、前年度と同数でした。

生徒数別学級数をみると、生徒数が36~40人の学級が構成比43.1%と最も多くなっ

ています。

外国人生徒数は、前年度に比べて8人(3.1%)減少して246人となりました。区別にみると、最も多いのは川崎区で133人、逆に最も少ないのは多摩区の12人となっています。

#### (4) 教員数(本務者)

教員数は、1,898人で、前年度に比べて1人(0.1%)減少しました。

公、私立別にみると、公立は1人(0.1%)増加して1,702人、私立は2人(1.0%)減少して196人となりました。

男女別にみると、男性が3人(0.3%)減少して1,085人(構成比57.2%)、女性が2人(0.3%)増加して813人(同42.8%)となりました。

1教員当たりの生徒数は、昭和60年度以降減少傾向にありましたが、今年度は0.1人増加して16.3人でした。

表5 中学校の概況

年次	学校数	学級数	生徒数			教員数(本務)		1学校当たり		1学級当たり		1教員 当たり 生徒数	
			総数	男	女	総数	うち女	生徒数	教員数	生徒数	教員数		
実数													
18年度	57	939	29,095	14,595	14,500	1,815	762	510.4	31.8	31.0	1.9	16.0	
19年度	57	965	29,801	14,992	14,809	1,863	780	522.8	32.7	30.9	1.9	16.0	
20年度	57	970	30,119	15,233	14,886	1,809	728	528.4	28.2	31.1	1.7	18.7	
公立	21年度	57	996	30,815	15,751	15,064	1,899	811	540.6	33.3	30.9	1.9	16.2
	川崎区	10	150	4,185	2,163	2,022	294	114	418.5	29.4	27.9	2.0	14.2
	幸区	5	82	2,427	1,306	1,121	150	60	485.4	30.0	29.6	1.8	16.2
	中原区	8	137	3,977	2,149	1,828	257	107	497.1	32.1	29.0	1.9	15.5
	高津区	5	106	3,353	1,743	1,610	199	83	670.6	39.8	31.6	1.9	16.8
	宮前区	8	178	5,605	3,021	2,584	332	155	700.6	41.5	31.5	1.9	16.9
	多摩区	7	127	3,996	2,189	1,807	241	107	570.9	34.4	31.5	1.9	16.6
	麻生区	8	119	3,423	1,837	1,586	228	95	427.9	28.5	28.8	1.9	15.0
	私立	6	97	3,849	1,350	2,488	198	90	641.5	33.0	39.7	2.0	19.4
	公立	22年度	57	1,013	30,937	15,778	15,159	1,898	813	542.8	33.3	30.5	1.9
川崎区		10	146	4,093	2,101	1,992	290	109	409.3	29.0	28.0	2.0	14.1
幸区		5	85	2,506	1,334	1,172	155	64	501.2	31.0	29.5	1.8	16.2
中原区		8	141	4,040	2,187	1,853	257	109	505.0	32.1	28.7	1.8	15.7
高津区		5	110	3,419	1,755	1,664	203	87	683.8	40.6	31.1	1.8	16.8
宮前区		8	182	5,609	3,083	2,526	330	149	701.1	41.3	30.8	1.8	17.0
多摩区		7	126	3,883	2,107	1,776	238	108	554.7	34.0	30.8	1.9	16.3
麻生区		8	125	3,543	1,876	1,667	229	97	442.9	28.6	28.3	1.8	15.5
私立		6	98	3,844	1,335	2,509	196	90	640.7	32.7	39.2	2.0	19.6
対前年度増減率(%)													
総数	-	1.7	0.4	0.2	0.6	△0.1	0.2	0.4	0.0	△1.3	0.0	0.6	
公立	-	1.8	0.5	0.2	0.7	0.1	0.3	0.5	0.0	△1.3	0.0	0.0	
川崎区	-	△2.7	△2.2	△2.9	△1.5	△1.4	△4.4	△2.2	△1.4	0.4	0.0	△0.7	
幸区	-	3.7	3.3	2.1	4.5	3.3	6.7	3.3	3.3	△0.3	0.0	0.0	
中原区	-	2.9	1.6	1.8	1.4	0.0	1.9	1.6	0.0	△1.0	△5.3	1.3	
高津区	-	3.8	2.0	0.7	3.4	2.0	4.8	2.0	2.0	△1.6	△5.3	0.0	
宮前区	-	2.2	0.1	2.1	△2.2	△0.6	△3.9	0.1	△0.5	△2.2	△5.3	0.6	
多摩区	-	△0.8	△2.8	△3.7	△1.7	△1.2	0.9	△2.8	△1.2	△2.2	0.0	△1.8	
麻生区	-	5.0	3.5	2.1	5.1	0.4	2.1	3.5	0.4	△1.7	△5.3	3.3	
私立	-	1.0	△0.1	△1.1	0.8	△1.0	0.0	△0.1	△0.9	△1.3	0.0	1.0	



表6 中学校の公・私立別、生徒数別学級数

1学級 生徒数	学級数						構成比(%)					
	総数		公立		私立		総数		公立		私立	
	21年度	22年度	21年度	22年度	21年度	22年度	21年度	22年度	21年度	22年度	21年度	22年度
総数	996	1,013	899	915	97	98	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1~12人	153	160	151	158	2	2	15.4	15.8	16.8	17.3	2.1	2.0
13~20	1	2	-	1	1	1	0.1	0.2	-	0.1	1.0	1.0
21~25	6	10	6	10	-	-	0.6	1.0	0.7	1.1	-	-
26~30	62	59	62	59	-	-	6.2	5.8	6.9	6.4	-	-
31~35	244	297	244	297	-	-	24.5	29.3	27.1	32.5	-	-
36~40	476	437	436	388	40	49	47.8	43.1	48.5	42.4	41.2	50.0
41~45	54	48	-	2	54	46	5.4	4.7	-	0.2	55.7	46.9
46人以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

## (5) 長期欠席者数

長期欠席者数（平成21年4月1日から平成22年3月31日までの間に通算30日以上  
の欠席者）は、20年度間より75人（5.2%）減少して1,380人となり、全生徒に占める  
割合は4.5%となっています。

理由別内訳をみると、小学校では、長期欠席の理由のうち構成比が最も大きいのは「病  
気」でしたが、中学校では「不登校」が1,109人（構成比80.4%）で最も多く、次に「病  
気」225人（同16.3%）、「その他」46人（同3.3%）の順となっています。

理由別内訳のうち「不登校」についてみると、全生徒に占める不登校生徒の割合は  
3.6%で、不登校の生徒は27.9人に1人となっています。

表7 中学校の理由別長期欠席者数（年度間に通算30日以上欠席した生徒数）（単位:人）

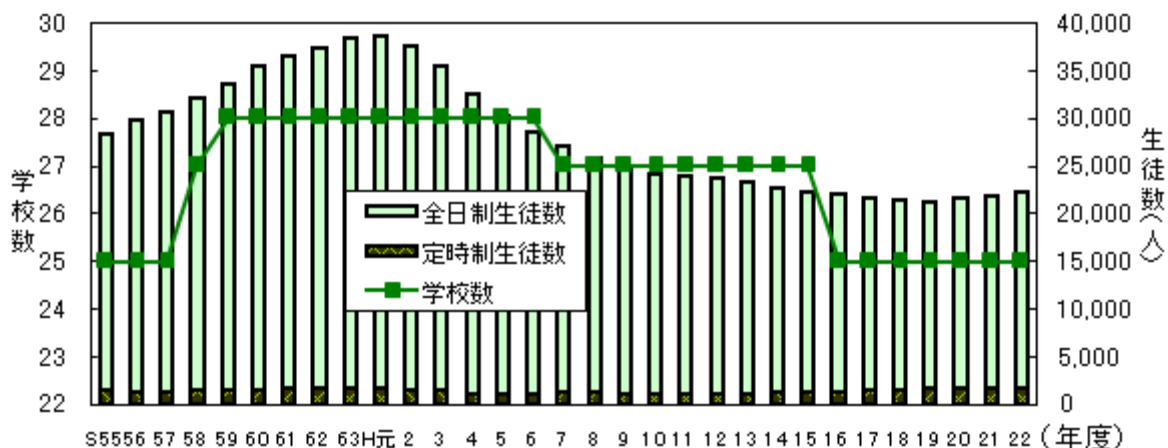
区 分	19年度間	20年度間			21年度間		
	実 数	実 数	増減数	増減率(%)	実 数	増減数	増減率(%)
総 数	1,485	1,455	△ 30	△ 2.0	<b>1,380</b>	<b>△ 75</b>	<b>△ 5.2</b>
病 気	293	244	△ 49	△ 16.7	225	△ 19	△ 7.8
経 済 的 理 由	11	0	-11	△ 100.0	-	0	-
不 登 校	1,113	1,159	46	4.1	1,109	△ 50	△ 4.3
そ の 他	68	52	△ 16	△ 23.5	46	△ 6	△ 11.5

表8 区別 理由別長期欠席生徒数

	計	病気	経済的理由	不登校	その他
川崎市	1,380	225	-	1,109	46
川崎区	335	43	-	284	8
幸 区	172	21	-	144	7
中原区	138	16	-	122	0
高津区	216	65	-	148	3
宮前区	213	18	-	180	15
多摩区	181	43	-	129	9
麻生区	125	19	-	102	4

### 3 高等学校

図4 高等学校数と生徒数の推移



#### (1) 学校数

学校数は公立が19校（県立14校、市立5校）、私立が6校の合計25校で、前年度と同数でした。

#### (2) 生徒数

生徒数は22,322人で、前年度に比べて547人（2.5%）増加し、平成元年度（生徒数38,629人）から減少が続いていましたが、平成20年度から増加に転じています。公、私立別にみると、公立は575人（3.7%）増加して16,140人、私立は28人（0.5%）減少して6,182人となりました。

課程別にみると、全日制の生徒は前年度に比べて491人（2.5%）増加し、定時制の生徒は56人（3.3%）増加しました。全日制生徒（20,560人）の生徒数総数（22,322人）に占める割合は前年度より0.1ポイント低い92.1%でした。

#### (3) 教員数（本務者）

教員数は、1,501人で前年度に比べて11人（0.7%）増加しました。公、私立別にみると、公立が12人（1.0%）増加して1,187人、私立が1人（0.3%）減少して314人となりました。

男女別にみると、男性が8人（0.8%）増加して1,073人（構成比71.5%）、女性が3人（0.7%）増加して428人（構成比28.5%）となっています。

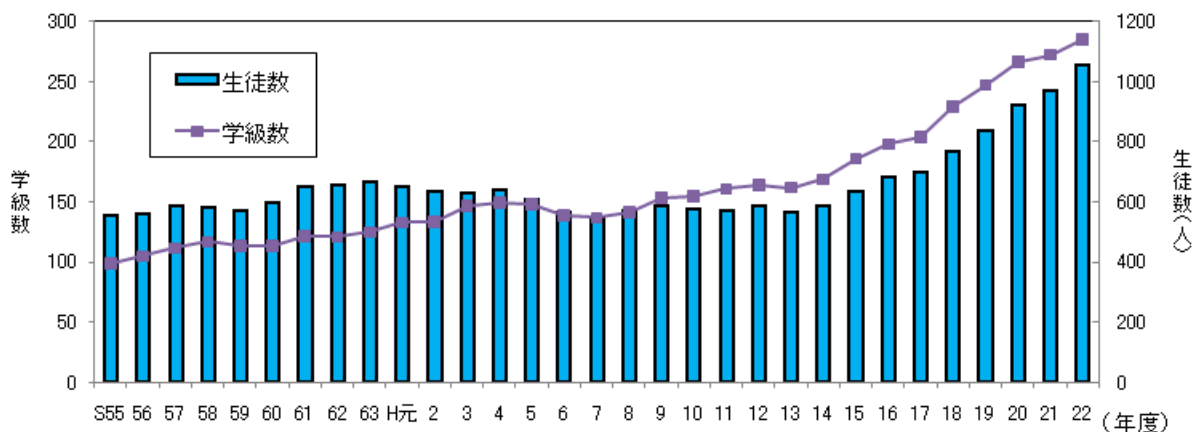
1教員当たりの生徒数は、前年度と比べ0.3人増加して14.9人でした。

表9 高等学校の概況

年次	学校数	学科数	生徒数			教員数(本務)		1学校当たり		1学科当たり		1教員 当たり 生徒数
			総数	男	女	総数	うち女	生徒数	教員数	生徒数	教員数	
実数												
18年度	25	33	21,318	10,727	10,591	1,483	376	852.7	59.3	646.0	44.9	14.4
19年度	25	34	21,258	10,666	10,592	1,475	389	850.3	59.0	625.2	43.4	14.4
20年度	25	34	21,577	10,729	10,848	1,487	394	863.1	59.5	634.6	43.7	14.5
21年度	25	34	21,775	10,909	10,866	1,490	425	871.0	59.6	640.4	43.8	14.6
公立	19	25	15,565	8,026	7,539	1,175	313	819.2	61.8	622.6	47.0	13.2
私立	6	9	6,210	2,883	3,327	315	112	1,035.0	52.5	690.0	35.0	19.7
22年度	25	34	22,322	11,222	11,100	1,501	428	892.9	60.0	656.5	44.1	14.9
公立	19	25	16,140	8,318	7,822	1,187	316	849.5	62.5	645.6	47.5	13.6
私立	6	9	6,182	2,904	3,278	314	112	1,030.3	52.3	686.9	34.9	19.7
対前年度増減率(%)												
19年度	-	3.0	△ 0.3	△ 0.6	0.0	△ 0.5	3.5	△ 0.3	△ 0.5	△ 3.2	△ 3.3	0.0
20年度	-	0.0	1.5	0.6	2.4	0.8	1.3	1.5	0.8	1.5	0.7	0.7
21年度	-	-	0.9	1.7	0.2	0.2	7.9	0.9	0.2	0.9	0.2	0.7
22年度	-	-	2.5	2.9	2.2	0.7	0.7	2.5	0.7	2.5	0.7	2.1
公立	-	-	3.7	3.6	3.8	1.0	1.0	3.7	1.1	3.7	1.1	3.0
私立	-	-	△ 0.5	0.7	△ 1.5	△ 0.3	0.0	△ 0.5	△ 0.4	△ 0.4	△ 0.3	0.0

## 4 特別支援学校

図5 特別支援学校の生徒数及び学級数の推移



### (1) 学校数

学校数は県立3校、市立3校の合計6校で、前年度と同数でした。

### (2) 学級数

学級数は285学級で、前年度に比べて13学級(4.8%)増加しました。

### (3) 幼児・児童・生徒数

幼児・児童・生徒数は1,056人で、前年度に比べて86人(8.9%)増加しました。

### (4) 教員数(本務者)

教員数は624人で、前年度に比べて31人(5.2%)増加しました。

男女別にみると、男性が11人(4.5%)増加して254人(構成比40.7%)、女性は20人(5.7%)増加して370人(構成比59.3%)となりました。

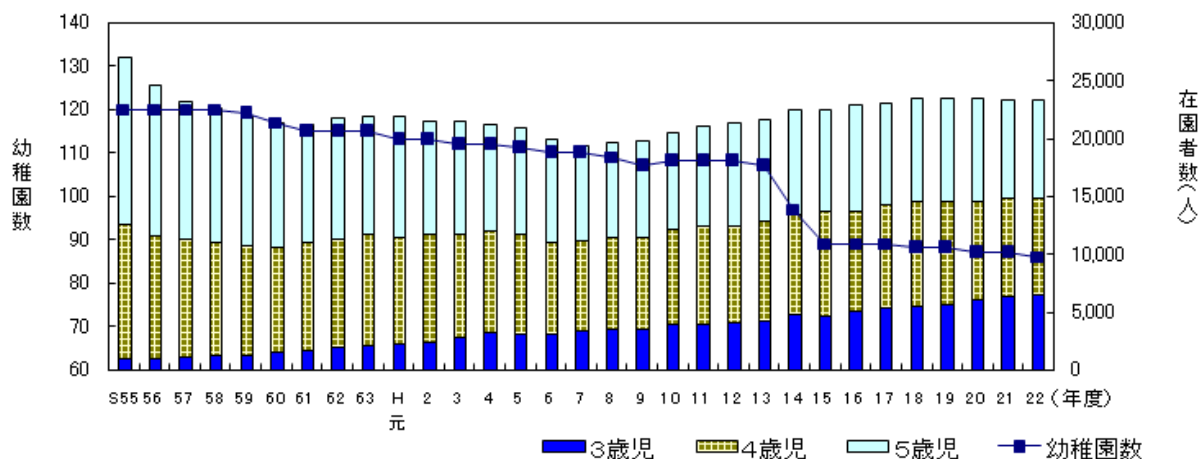
表10 特別支援学校の概況

区分	学校数	学級数					幼児・児童・生徒数				1学級当たりの 幼児・児童・生徒数				
		計	幼稚部	小学部	中学部	高等部	総数	幼稚部	小学部	中学部	高等部	幼稚部	小学部	中学部	高等部
18年度	6	229	3	64	63	99	767	11	180	182	394	3.7	2.8	2.9	4.0
旧ろう学校	1	12	3	3	3	3	32	11	6	9	6	3.7	2.0	3.0	2.0
旧養護学校	5	217	-	61	60	96	735	-	174	173	388	-	2.9	2.9	4.0
19年度	6	247	3	74	65	105	839	8	214	193	424	2.7	2.9	3.0	4.0
20年度	6	266	3	81	71	111	926	9	235	217	465	3.0	2.9	3.1	4.2
21年度	6	272	1	83	73	115	970	4	242	224	500	4.0	2.9	3.1	4.3
22年度	6	285	1	84	75	125	1,056	2	250	237	567	2.0	3.0	3.2	4.5

(注) 特別支援学校は、平成19年の学校教育法の改正により「盲学校、ろう学校、養護学校」を一本化したものである。  
平成18年度までは「旧ろう学校・旧養護学校」それぞれの数値を掲載した。

## 5 幼稚園

図6 幼稚園数と在園者数の推移



### (1) 幼稚園数

幼稚園数は、公立が0園となり、私立が1園増えて86園となり、合計では86園で前年度より1園減少しました。

### (2) 学級数

学級数は819学級で、前年度に比べて10学級(1.2%)増加しました。

### (3) 在園者数

在園者数は23,382人で、前年度に比べて11人(0.0%)減少しました。

私立だけでみると、前年度と比べ58人(0.2%)増加して23,382人となりました。

年齢別にみると、3歳児は6,532人で前年度に比べて144人(2.3%)増加し、4歳児は8,362人で142人(1.7%)減少し、5歳児は8,488人で13人(0.2%)減少しました。

1幼稚園当たりの在園者数は前年度に比べ3.0人増加し、271.9人となりました。

1学級当たりの在園者数は前年度に比べ0.4人減少し、28.5人となりました。

### (4) 教員数(本務者)

教員数は1,256人で、前年度に比べて5人(0.4%)増加しました。

男女別にみると、男性は前年度と同数の87人(構成比6.9%)、女性は5人(0.4%)増加し1,169人(構成比93.1%)となりました。

1教員当たりの在園者数は、前年度に比べ0.1人減少し、18.6人でした。

表 11 幼稚園の概況

年次	園数	学級数	在園者数			教員数(本務)		1園当たり		1学級当たり		1教員 当たり 在園者数
			総数	男	女	総数	うち女	在園者数	教員数	在園者数	教員数	
実数												
18年度	88	806	23,497	11,891	11,606	1,225	1,148	267.0	13.9	29.2	1.5	19.2
19年度	88	808	23,475	11,847	11,628	1,182	1,122	266.8	13.4	29.1	1.5	19.9
20年度	87	812	23,471	11,905	11,566	1,256	1,173	269.8	14.4	28.9	1.5	18.7
21年度	87	809	23,393	11,941	11,452	1,251	1,164	268.9	14.4	28.9	1.5	18.7
公立	2	2	69	48	21	15	15	34.5	7.5	34.5	7.5	4.6
私立	85	807	23,324	11,893	11,431	1,236	1,149	274.4	14.5	28.9	1.5	18.9
22年度	86	819	23,382	11,935	11,447	1,256	1,169	271.9	14.6	28.5	1.5	18.6
公立	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
私立	86	819	23,382	11,935	11,447	1,256	1,169	271.9	14.6	28.5	1.5	18.6
対前年度増減率(%)												
19年度	-	0.2	△ 0.1	△ 0.4	0.2	△ 3.5	△ 2.3	△ 0.1	△ 3.6	△ 0.3	0.0	3.6
20年度	△ 1.1	0.5	△ 0.0	0.5	△ 0.5	6.3	4.5	1.1	7.5	△ 0.7	0.0	△ 6.0
21年度	-	△ 0.4	△ 0.3	0.3	△ 1.0	△ 0.4	△ 0.8	△ 0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
22年度	△ 1.1	1.2	△ 0.0	△ 0.1	△ 0.0	0.4	0.4	1.1	1.4	△ 1.4	0.0	△ 0.5
公立	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0
私立	1.2	1.5	0.2	0.4	0.1	1.6	1.7	△ 0.9	0.7	△ 1.4	0.0	△ 1.6

## 6 専修学校

### (1) 学校数

学校数は10校で、前年度と同数でした。

### (2) 学科数

学科数は前年度に比べて1学科減少し、20学科でした。

分野別の学科数をみると、文化・教養関係が6学科と最も多く、次に医療関係4学科、工業関係3学科、商業実務関係3学科、服飾・家政関係2学科、衛生関係1学科、教育・社会福祉1学科でした。

### (3) 生徒数

生徒数は1,687人で、前年度に比べて39人(2.3%)減少しました。

男女別にみると、男子は10人(1.5%)減少して647人(構成比38.4%)、女子は29人(2.7%)減少して1,040人(構成比61.6%)となりました。

分野別の生徒数をみると、文化・教養関係が775人(構成比45.9%)と最も多く、次に医療関係509人(同30.2%)、服飾・家政関係140人(同8.3%)、商業実務関係109人(同6.5%)、衛生関係68人(同4.0%)、教育・社会福祉50人(同3.0%)、工業関係36人(同2.1%)となっています。

### (4) 教員数(兼務者を含む。)

教員数は624人(うち兼務者532人)で、前年度に比べて7人(1.1%)増加しました。

本務者92人について男女別にみると、男性は前年度と同数の31人(構成比33.7%)、女性は前年度と比べて8人増加し61人(構成比66.3%)となっています。

表12 専修学校の概況

年次	学校数	生徒数						教員数	1学校当たり		1教員 当たり 生徒数
		総数			専門課程	高等課程	一般課程		生徒数	教員数	
		計	男	女							
実数											
18年度	11	1,908	757	1,151	1,838	70	-	688	173.5	62.5	2.8
19年度	10	1,814	727	1,087	1,738	76	-	640	181.4	64.0	2.8
20年度	10	1,780	661	1,119	1,705	75	-	578	178.0	57.8	3.1
21年度	10	1,726	657	1,069	1,643	83	-	617	172.6	61.7	2.8
22年度	10	1,687	647	1,040	1,597	90	-	624	168.7	62.4	2.7
対前年度増減率(%)											
19年度	△9.1	△4.9	△4.0	△5.6	△5.4	8.6	-	△7.0	4.6	2.4	0.0
20年度	0.0	△1.9	△9.1	2.9	△1.9	△1.3	-	△9.7	△1.9	△9.7	10.7
21年度	-	△3.0	△0.6	△4.5	△3.6	10.7	-	6.7	△3.0	6.7	△9.7
22年度	-	△2.3	△1.5	△2.7	△2.8	8.4	-	1.1	△2.3	1.1	△3.6

## 7 各種学校

### (1) 学校数

学校数は3校で、前年度と同数でした。

### (2) 課程数

課程数はそれぞれ前年度と同数で、外国人学校4課程、家政関係2課程の合計6課程でした。

### (3) 生徒数

生徒数は149人で、前年度に比べて1人(0.7%)増加しました。

男女別にみると、男子は5人(9.1%)増加し60人(構成比40.3%)、女子は4人(4.3%)減少して89人(構成比59.7%)となりました。

課程別には、外国人学校が138人(構成比92.6%)、家政関係が11人(同7.4%)となっています。

### (4) 教員数(兼務者を含む。)

教員数は28人(うち兼務者5人)で、前年度と同数でした。

本務者23人について男女別にみると、それぞれ前年度と同数で、男性6人(構成比26.1%)、女性17人(構成比73.9%)でした。

表13 各種学校の概況

年次	学校数	生徒数				教員数	1学校当たり		1教員 当たり 生徒数
		総数			昼の課程		生徒数	教員数	
		計	男	女					
実数									
18年度	4	154	61	93	154	29	38.5	7.3	5.3
19年度	3	139	55	84	139	27	46.3	9.0	5.1
20年度	3	144	58	86	144	26	48.0	8.7	5.5
21年度	3	148	55	93	148	28	49.3	9.3	5.3
22年度	3	149	60	89	149	28	49.7	9.3	5.3
対前年度増減率(%)									
19年度	△25.0	△9.7	△9.8	△9.7	△9.7	△6.9	20.3	23.3	△3.8
20年度	0.0	3.6	5.5	2.4	3.6	△3.7	3.7	△3.3	7.8
21年度	-	2.8	△5.2	8.1	2.8	7.7	2.7	6.9	△3.6
22年度	-	0.7	9.1	△4.3	0.7	0.0	0.8	0.0	0.0



## Ⅱ 卒業後の状況

### 1 中学校

平成 22 年 3 月の中学校卒業者は 10,423 人で、前年より 651 人(6.7%)増加しました。  
男女別にみると、男子が 418 人(8.6%)増加して 5,287 人(構成比 50.7%)、女子が 233 人(4.8%)増加して 5,136 人(構成比 49.3%)となりました。

#### (1) 進学者の状況

高等学校等進学者は、前年より 671 人(7.0%)増加し、10,210 人となりました。

卒業者総数に占める高等学校等進学者の割合(進学率)は、前年と比べて 0.4 ポイント増加し、98.0%となっています。

男女別の進学率は、男子は 0.5 ポイント増加し 97.7%となり、女子は 0.3 ポイント増加し 98.3%となっています。

公、私立別にみると、公立は 0.4 ポイント増加して 97.7%、私立は前年度と同じ 99.8%となっています。

高等学校等進学者のうち他県への進学者は 2,411 人で、高等学校等進学者全体に占める割合は、前年より 1.0 ポイント減少して 23.6%となっています。

専修学校等進・入学者は前年より 5 人(21.7%)減少して、18 人(構成比 0.2%)となっています。

#### (2) 就職者の状況

就職者(高等学校等進学者及び専修学校等進・入学者のうち就職している者を除く)は、前年より 11 人(18.0%)減少して 50 人(構成比 0.5%)となりました。

就職者数に高等学校等進学者及び専修学校等進・入学者のうち就職している者を加えた就職者総数は、前年より 10 人(16.4%)減少し 51 人となりました。

卒業者総数に占める就職者総数の割合(就職率)は、0.1 ポイント減少して 0.5%となっています。

男女別にみると、男子が前年と同じ 0.9%、女子が 0.3 ポイント減少し 0.1%となりました。

就職者総数の産業部門別構成比をみると、第 1 次産業の就職者はなく、第 2 次産業が 47.1%、第 3 次産業が 41.2%、その他 11.8%となっています。

就職先を男女別にみると、男子は第 2 次産業が 52.2%、第 3 次産業が 34.8%、その他 13.0%で、女子は第 3 次産業が 100.0%となっています。

表 14 進路別中学校卒業生数

卒業年月	総数	高等学校 等進学者 (a)	専修学校 等進・入学 者 (b)	就 職 し た 者 (c)	左記及び 死亡・不詳 以外の者	死 亡 ・ 不 詳	〈再掲〉 (a)及び(b)のうち就職している 者			〈再掲〉 就 職 者 総 数 (c)+(d)
							総数 (d)	(a)のうち	(b)のうち	
実 数 (人)										
18年3月	9,434	9,180	45	47	161	1	2	2	-	49
19年3月	9,630	9,360	43	80	144	3	1	1	-	81
20年3月	9,818	9,575	47	67	127	2	2	1	1	69
21年3月	9,772	9,539	23	61	148	1	-	-	-	61
22年3月	10,423	10,210	18	50	144	1	1	1	-	51
構 成 比 (%)										
18年3月	100.0	97.3	0.5	0.5	1.7	0.0	0.0	0.0	-	0.5
19年3月	100.0	97.2	0.4	0.8	1.5	0.0	0.0	0.0	-	0.8
20年3月	100.0	97.5	0.5	0.7	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7
21年3月	100.0	97.6	0.2	0.6	1.5	0.0	-	-	-	0.6
22年3月	100.0	98.0	0.2	0.5	1.4	0.0	0.0	0.0	-	0.5

- (注) 1. 「高等学校等進学者」は、高等学校の本科・別科、高等専門学校へ進学した者をいう。  
 2. 「専修学校等進・入学者」は、専修学校(高等課程)への進学者並びに専修学校(一般課程)、各種学校及び公共職業能力開発施設等へ入学(所)した者をいう。

## 2 高等学校

平成22年3月の高等学校卒業生は6,685人で、前年より150人(2.3%)増加しました。男女別にみると、男子が173人(5.4%)増加して3,365人(構成比50.3%)、女子が23人(0.7%)減少して3,320人(構成比49.7%)となりました。

### (1) 進学者の状況

大学等進学者は、前年より53人(1.4%)増加し、3,971人となりました。

卒業生総数に占める大学等進学者の割合(進学率)は、前年より0.6ポイント減少して59.4%となりましたが、6年続けて50%を上回りました。

男女別にみると、男子は1.1ポイント減少し58.1%となり、女子は0.6ポイント減少し60.1%となっています。

公、私立別にみると、公立は0.9ポイント減少して47.8%、私立は2.0ポイント増加して85.5%となりました。

大学等進学者のうち、大学(学部)への進学者は3,666人で、前年より79人(2.2%)増加しました。男女別にみると、男子が1,938人、女子が1,728人となっています。

専修学校等進・入学者は、前年より168人(14.5%)増加して1,324人(構成比19.8%)となりました。

### (2) 就職者の状況

就職者(大学等進学者及び専修学校等進・入学者のうち就職している者を除く)は、前年より85人(11.0%)減少して690人(構成比10.3%)となりました。

就職者数に大学等進学者及び専修学校等進・入学者のうち就職している者を加えた就職者総数は、前年より87人(11.2%)減少して690人となりました。

卒業者総数に占める就職者総数の割合（就職率）は、1.6ポイント減少して10.3%（男子12.8%、女子7.8%）となりました。過去のピークと比べると、昭和36年3月には61.3%（男子53.7%、女子70.4%）あった就職率は、48年間で51.0ポイント低下しました。

就職者総数を職業別にみると、「生産工程・労務作業者」が313人（構成比45.4%）と最も多く、次に「サービス職業従事者」112人（同16.2%）、「事務従事者」106人（同15.4%）などの順になっています。職業別に男女別の構成比をみると、男子は「生産工程・労務作業者」が男子就職者総数の66.4%を占め、次に「サービス職業従事者」13.2%、「販売従事者」6.5%、などの順となっています。女子は「事務従事者」が37.1%と最も多く、次に「販売従事者」22.0%、「サービス職業従事者」21.2%などの順となっています。

就職者総数を産業別にみると、「製造業」が148人（構成比21.4%）と最も多く、次に「建設業」120人（同17.4%）、「卸売業、小売業」110人（同15.9%）などの順となっています。産業別に男女別の構成比をみると、男子は「製造業」が26.2%と最も多く、次に「建設業」24.1%、「卸売業、小売業」8.8%などの順となっています。女子は「卸売業、小売業」が27.8%と最も多く、次に「製造業」13.5%、「医療、福祉」9.7%などの順となっています。

また、平成16年から調査を開始した「一時的な仕事に就いた者」（臨時的な収入を目的とする仕事に就いた者（アルバイト、パート等））は161人で、卒業者総数に占める割合は2.4%となっています。

表15 進路別高等学校卒業生数

卒業年月	総数	大学等 進学者 (a)	専修学校 等進・入学 者(b)	就 職 し た 者 (c)	一時的な仕 事に就いた 者	左記及び 死亡・不詳 以外の者	死 亡 ・ 不 詳	〈再掲〉 (a)及び(b)のうち就職している 者			〈再掲〉 就職者 総数 (c)+(d)
								総数(d)	(a)のうち	(b)のうち	
					実 数 (人)						
18年3月	6,841	3,594	1,596	779	228	644	-	1	1	-	780
19年3月	6,723	3,836	1,420	754	175	538	-	4	1	3	758
20年3月	6,391	3,782	1,139	787	119	564	-	-	-	-	787
21年3月	6,535	3,918	1,156	775	140	546	-	2	1	1	777
22年3月	6,685	3,971	1,324	690	161	533	6	-	-	-	690
					構 成 比 (%)						
18年3月	100.0	52.5	23.3	11.4	3.3	9.4	-	0.0	0.0	-	11.4
19年3月	100.0	57.1	21.1	11.2	2.6	8.0	-	0.1	0.0	0.0	11.3
20年3月	100.0	59.2	17.8	12.3	1.9	8.8	-	-	-	-	12.3
21年3月	100.0	60.0	17.7	11.9	2.1	8.4	-	0.0	0.0	0.0	11.9
22年3月	100.0	59.4	19.8	10.3	2.4	8.0	0.1	-	-	-	10.3

- (注) 1. 「大学等進学者」は、大学・短期大学の本科・別科、高等学校等の専攻科へ進学した者をいう。  
 2. 「専修学校等進・入学者」は、専修学校(専門課程)への進学者並びに専修学校(一般課程)、各種学校及び公共職業能力開発施設等へ入学(所)した者をいう。